

病氣になつて良かったことは…

島田裕子

「病氣になつて良かったことは、ひとつもありません。病氣は、マイナスでしかありません」中学生の時、読書感想文にこのように書いたのを覚えています。題名は忘れましたが、その本に「病氣は必ずしもマイナスの経験ではない」という文章があり、それに反発して書いたのです。私は重い小児喘息でした。しばしば夜中に発作を起こして、病院にかつぎこまれました。中学生になると、一生治らないのでは……という不安を抱くようになります。そして、なぜ自分がこんな苦しい目にあうのかという思いと、病氣に対する憎しみで心がいっぱいでした。

その後、漢方薬で良くなり、発作が起らなくなりましたが、結婚後再びひどくなりました。そのときは、洗礼は受けていましたが教会を離れており、神様がどういうお方かわからず、「なぜ、また、なつたのですか？ 早く癒して下さい」と祈っていました。祈つても良くならないので、神様が意地悪をしているように思えました。

再び教会に行くようになり、自分の間違いに気づきました。（神様は、いますぐ癒すこ

ともできる。でも、喘息の苦しみがいまの私に必要なだから与えて下さっている。だから、感謝しなくては……」と思ったのですが、ひどい苦しみに襲われると、「神様、どうしてですか？」と泣きながら文句をいっていました。

ある夜、ひどい発作が起き、薬が全く効かなくなりました。丸めた蒲団にもたれて、「神様、もう耐えられません。早く天国に連れて行って息をしなくてもいい体にしてください」と、幼い子供たちがいるのに死を願ってしまいました。そのとき、私の心に声が聞こえました。

「耐えることのできないような試練に会わせはしない」

イエス様がそばにいて、やさしい眼差しで見つめておられました。（耐えられないはずはないんだ）そう思ったときふっと肩の力がぬけて平安が与えられ、発作は続いていましたが、朝まで眠れたのです。

その後、病院で予防の治療をはじめたので、それ以来、ひどい発作を起こすことがなくなりしました。「病気になって良かったことはたくさんあります。私は病気の苦しみの中で、神様の愛を知りました」と、いま読書感想文を書き直します。